

フッ化物洗口問題

フッ化物洗口事業について問う。

これまで、市は『フッ化物洗口によるう蝕予防の有効性と安全性は、国内外の多くの研究により示されている』と答弁している。有効性と安全性に懸念があるとの学術的な主張がある。科学は絶対性と再現性が求められ、過去の定説が翻されることも多く、多数決で決めるものではない。フッ化物洗口事業についての疑問がぬぐいきれないことから、学校現場、市民の皆様の素朴な疑問を代弁するという意識で引き続き6点質問する。

質問：現在実施している学校名、対象生徒数の状況、平成29年度実施予定校については教職員への説明実施状況、保護者への説明実施状況を問う。希望調査を実施済みの学校については調査結果を問う。

教育部長：現在、フッ化物洗口事業を実施している学校は、本年5月に開始した霧島、横川、小野小学校を含め、8校。

| | |
|-------------------------|-------------------------|
| 川原小学校： 16名中 15名 で93.8% | 高千穂小学校： 88名中 72名で81.8% |
| 中津川小学校： 31名中 31名で100% | 佐々木小学校： 21名中 21名で100% |
| 安良小学校： 30名中 30名で100% | 霧島小学校： 49名中 38名で77.6% |
| 横川小学校： 140名中 126名で90.0% | 小野小学校： 149名中 144名で96.6% |

平成 29 年度の説明会は、昨年度未実施であった陵南小学校の保護者説明会を含め、12校の実施を予定している。5月までに福山、塚脇小学校において教職員説明会を開催した。今後、向花、上小川、国分南、溝辺、持松、大田、永水、中福良及び牧之原小学校において、教職員及び保護者説明会を計画的に実施する予定。

以下『霧島市学校フッ化物洗口実施の手引き』フッ化物洗口Q&A記載内容について問う。

質問：(P29③) (フッ化物洗口事業の管理・運営関連) インフォームド・コンセントに基づいて実施するので、実施に同意しない意見が多かった場合に、学校に対して実施を強いるようなことはしないと記載されている。希望者数の割合がどの程度であれば実施するのか問う。希望者が少なくなった場合の中止の基準も示せ。

教育部長：フッ化物洗口の実施は、保護者説明会後に行う「実施希望調査」で希望が6割を超えるかどうかを実施の目安としている。なお、希望者が減少した場合の中止の基準については、本市の「学校フッ化物洗口実施の手引き」には定めておらず、希望する者に対しては継続して実施したいと考えている。(実施の目安も登録されていないのでは?)

質問：P31② (フッ化物洗口の安全面関連) 誤飲時の対応としてカルシウム剤を服用とある。この科学的理由を問う。

保険福祉部長：「学校フッ化物洗口Q&A」にも記載のとおり、誤って1回分のフッ化物洗口液を飲み込んだとしても、健康には支障のない濃度や量であり問題はない。万が一、大量に飲み込んでしまった場合には、カルシウム剤を服用することにより、胃の中に、安定したフッ化カルシウムが形成され、フッ素中毒が抑制されることになる。

質問：P32④（その他関連事項）フッ化物洗口を学校で行うことについて予防接種が個別に移行したことの関連の記述がある。貧困家庭はむし歯が多い、その救済の為にフッ化物洗口を実施するとも読める。詳しい説明を求める。

教育部長：う蝕予防は、個人の予防対策だけでは難しく、集団または社会全体で取り組むべきであると捉えており、予防接種が集団から個別へと移行したことは趣旨が違うということを述べたものである。子どもの貧困との関連は無い。

質問：P32⑤（その他関連事項）フッ化物洗口が、普及してこなかった理由として、インターネット等を通し正しい情報が伝わっていない、不安をあおっている。偏った情報だけで判断するのではなく、他県のこれまでの取組や安全に効果的に実施できている実績を踏まえ、考える必要があると記載されている。フッ化物洗口の問題を指摘する情報は間違いで、フッ化物洗口の効果があるという情報は正しいという発想こそ、謙虚さの無い偏った考えと思う。多様な意見を否定するのを見解を問う。

教育部長：フッ化物洗口の効果について、多様な意見があることを否定したものではない。市では、厚労省の「フッ化物洗口ガイドライン」に示されている「インフォームド・コンセント（正しい情報を得た上で合意すること）」に基づき、保護者等が説明会等の情報を踏まえ、実施の希望について判断することを保証している。フッ化物の効果的な応用法と安全性について平成 12 年から厚生労働科学研究事業として検討が行われてきており、より効果的な、う蝕予防対策として、長年にわたりフッ化物洗口法の普及が図られてきているので、今後も説明会等を通してフッ化物洗口の有効性や安全性について丁寧に説明する。

質問：P32⑥（その他関連事項）佐賀県、新潟県がフッ化物洗口に取り組む成果を上げているとの記述がある。新潟県の学校の実施率、及び佐賀県より実施率が極端に少ない広島県、神奈川県、東京都の12歳時平均むし歯数が佐賀県より何故少ないか、科学的な説明を求める。

教育部長：平成 28 年度における新潟県の小学校の実施率は 65.4%、佐賀県は 93.8%であり、両県とも全国的に高い実施率である。

平成 28 年度の広島県、神奈川県、東京都の 12 歳児の一人平均むし歯保有数は、佐賀県と同じ 0.7 本であるが、平成 18 年度からのむし歯保有数の減少数で比較すると、フッ化物洗口の実施率が低い 1 都 2 県の平均が約 1.3 本から 0.7 本への減少であったのに対し、フッ化物洗口に積極的に取り組んでいる佐賀県は 2.0 本から 0.7 本と大幅に減少している。フッ化物洗口の取組が効果を上げているものと考えられます。（恐ろしいほどの詭弁であり、学術的な説明とはとても思えない。1 都 2 県が何故むし歯保有数が少ないのかを調査し、実践すればフッ化物洗口をせずともよいことになるはずです。）

以下、質問席

Q：誤って飲み込んだ場合、カルシウム剤を用いる理由として、フッ化カルシウム化との答弁であるが、フッ素は元々自然界にたくさんあると発言を受けている。だから安全なんだと。

健康増進課長：フッ素が自然界に多く存在するのは、フッ化カルシウムの形で多く存在しており、カルシウム剤を服用する事によってフッ素イオンとカルシウムイオンが反応してフッ化カルシウムが形成される。安定した形で便として排泄される。

Q：やっとまともな答弁になった。フッ化ナトリウムとフッ化カルシウムは異なるという事、自然界に存在するフッ素化合物の殆どはフッ化カルシウムである事の認識で良いか？

健康増進課長：そのとおりである。

Q：薬物の反応は誤飲した後、カルシウム剤を飲んで効き目があるか？ 胃中の胃酸と反応する、直ちに反応するはずだ。

健康増進課長：胃酸の構成物質である塩酸があり、水素イオンと塩素イオンの状態で胃の中に存在している。そこに洗口液を誤って飲み込んだ場合、胃内で水素イオンとフッ素イオンが、塩素イオンとナトリウムが結合する。そこでカルシウム剤を服用することで胃の中でカルシウムイオンの状態になり、電子を引き付ける力が強いフッ素はカルシウムイオンと結合しフッ化カルシウムを形成すると考えている。

Q：猛毒のフッ酸に変わってしまっている。

保険福祉部長：カルシウム剤を飲むというのは、ミラノールの取扱説明書の中に記載がある。読み上げる。『誤って飲用し、嘔吐、腹痛、下痢などの急性中毒症状を起こした場合には牛乳、グルコ酸カルシウムなどのカルシウム剤を応急的に服用させ医師の診療を受けさせる事』と記載されている。従ってカルシウム剤、牛乳を飲む事が一時的な対応であり、最終的には医師の診断を受けて対応するというのが方向性である。

Q：メーカーに確認したが、フッ酸（フッ化水素）になるのを防止すると明快に言っている。そのような意味で対応は一時を争うという認識を持っていただきたい。

教育部長の佐賀、広島、神奈川、東京の比較で説明が明確でない。私は歯科医師会発言どおり科学的な説明を求めている。以前、どこかの学校の説明会で歯科医が広島県は水道水にフッ素が含まれているのではとの発言があったようだ。発言の確認が出来るか？

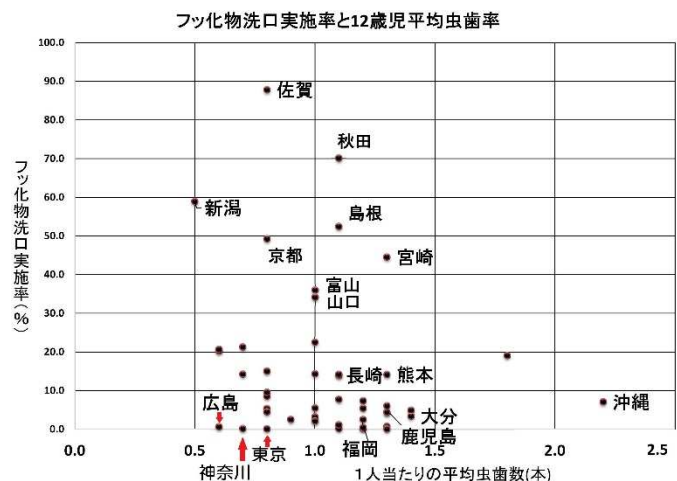
教育部長：科学的な証明は我々は出来ない。学校で歯科医がそのような発言をしたという事は聞いていない。

Q：私は保護者から聞いた。広島県の水道水を調べた。霧島市と全く同じ基準値で、検査結果も当然、基準値より低かった。伝えておきます。歯科医の方もお聞きでしょうから。

学術的と言って、学術的に証明できない。何故、東京はむし歯が少ない、1%未満の実施率で、むし歯が少ない事を積極的に調査したら、学校側に負担を掛けるフッ化物洗口は止める事が出来る。

教育部長：フッ化物洗口については、相当議論をした。常に言っているのは虫歯の予防は3つの方法

が考えられる。①ブラッシング、②甘味料の適切な取り方、③フッ化物を利用した予防が考えられる。このような事から、例えば東京とか都市部の事を考えると歯に対する予防的な意識が高いのか、あるいはブラッシング、あるいは甘味料の調整が進んでいるのか分からない。ただ霧島市としては子供達のむし歯を一本でも減らす、無くする事に向けて、



そのブラッシングと甘味料の調整と併せて国が色々な形で検証し効果を得ているというフッ化物を利用している、その方針で推進している。

Q：フッ化物洗口を実施している都道府県の実施率とむし歯数のグラフである。新潟県が一番左端に来ているが6割の実施率でほぼ0.5である。表の下部、広島、神奈川、東京は殆どフッ化物洗口を実施せずに、佐賀県と同じむし歯数ですよと言っている。これは確かな数字である。確認いただきたい。